

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
 東部教育局
 〒680-0846 鳥取市扇町21番地
 東教発 H27.6.1 №132
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

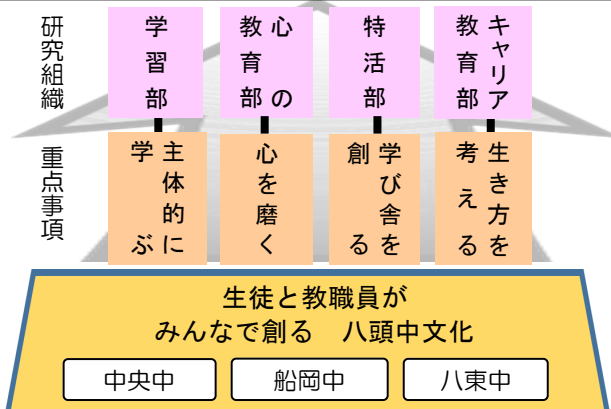
みんなで創る！「八頭中学校」スタート

八頭町立八頭中学校



この春、中央・船岡・八東の3中学校が統合し、「八頭中学校」が開校しました。それぞれの学校の文化の中で生活していた生徒達が肩を並べ、学習したり生活したりすることになり、学習ルール、給食の準備等、今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなりました。今、めざす学校の姿を具体的な実践につなげながら、生徒と全教職員が一丸となって、一つ一つを創り上げています。

立志（志を立てる） 自律（自分を磨く） 創造（未来を創る）



学校行事の招待状を生徒が作成してはどうだろう

八頭町の活性化に向けたアイデアを発信できないだろうか



生徒会リーダー研修会 4/26



校内プロジェクト研究会 4/3
キャリア教育部

どんな生徒会にしていくとよいだろう

八頭中学校の生徒会で、何が
できるだろう

授業・学校生活のルールを一つ一つ確認し創り上げていく、そんな地道な取組の積み重ねが、学校づくりを支えています。学校や児童生徒の姿は、そうした毎日の取組実践の結果とも言えます。日々当たり前に行っている活動を見つめ直し振り返ることが、よりいっそう教育効果を高めることにつながります。



ありのままの姿で

局長 杉本 仁詞

「理想の小学校教師像（森信三著）致知出版社」を読みながら自分の教育実践を振り返った。

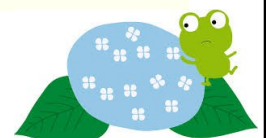
保護者との懇談で家庭での子どもの活発な様子を聞いて、学校での姿からは想像がつかないことがあった。休憩時間、気心の知れた友だちと話している姿は本当に楽しそうだが、授業となると閉じこもってしまう子どもがいた。私が子どもとの関係で大事にしてきたことのひとつが、学校で、授業で、子どもがありのままの自分を出し、思ったことが自由に言え、解放できるようにしたいということであった。言い換えると、子どもにとって学校が癒やされる場にしたいということと、そういう基盤の上で、子どもが本音で語り合い、新たなものをつかみ合うことのできる授業にしたいということであった。そんな思いで実践を積み重ねていく中で教師自身が自分を解放し、子どもに向き合っていくことが大切だということに気付くことができた。しかし、全ての子どもが本当に解放されていたかという、自信がなかったし、自分の不十分さを感じていた。

森信三は、子どもを真に解放するために、教師自身に次の二つの要素が必要だと指摘している。

- (一) 教師の人間観が、人間の本質的平等性の確認の基盤の上に成立していること
- (二) 子どもたちの心理を深く洞察して、巧みにその心の扉をひらくような手が打てること、即ちそうした一種の機智を身につけること

私は、この指摘に、確かに自分は不十分であったと大変納得させられた。

この本には、先達が学び掴んだ教育の神髄が凝縮されている。「修身教授録」とあわせて読みたい本である。



学事コーナー ～ コンプライアンス研修を必ず行ってください ～

学校においては、不祥事撲滅のため、組織をあげてコンプライアンスの向上に取り組んでいると思います。しかしながら、昨年度も教職員の懲戒処分が6件あり、一部の教職員の不適切な行為によって、教育への信頼が大きく損なわれています。

なぜ、これだけ研修を行っても不祥事がなくなるのでしょうか。

- ・ 不祥事を自分の問題ととらえ切れておらず、研修を形式的に受けている教職員がいるのではないか。
- ・ 勤務時間中は自覚があるが、休日等ではつい気が抜け、意識が低下してしまっているのではないか。

ぜひ、自分の問題としてとらえられる研修や24時間勤務規律徹底の意識が持てる研修を工夫して、実施してください。

昨年度の不祥事で多かったのは、交通違反・交通事故に関することです。

物損事故（加害）	31件	
速度違反	36件（うち4件は31キロ以上）	
一時停止違反	13件	（東部）

あなたは大丈夫ですか。自分はどうであるか、一人一人が振り返ることも大切なのではないでしょうか。以下の項目について、チェックしてみましょう。



各学校に配布した本資料を、ぜひご活用ください。

「自家用車の運転について」（休日等も含む）	チェック（✓）欄
・ 制限速度を常に意識しながら運転している。	
・ 一時停止は、タイヤが止まるまでしっかりと止まり左右を確認している。	
・ 運転中は、たとえ着信があっても携帯やスマートフォンを操作していない。	
・ 飲酒運転は絶対にしないと心に誓っている。	

その他のことについても振り返ってみましょう。

「毎日の勤務の中で」	チェック（✓）欄
・ 勤務開始時刻ぎりぎりではなく、時間に余裕を持って出勤している。	
・ 朝、出勤簿に押印している。	
・ 提出物等は、期限内に余裕を持って提出している。	
・ 勤務時間内にスマートフォン等を私的に使用していない。教室で授業等で使用するときは児童生徒に説明している。	
・ TPOにあった服装を心がけ、児童生徒の手本となるよう心がけている。	
・ 個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、保護者へのたよりを出す際には必ず管理職のチェックを受けている。	
・ 感情的な指導を行わないよう心がけ、体罰をしないよう常に心がけている。	
・ 出張が終わった際は、常に文書か口頭で校長先生に復命をしている。	

「休日等」	チェック（✓）欄
・ スーパーマーケットやコンビニ等で買い物をする際、疑わしい行動をしないよう心がけている。	
・ 地域の懇親会等の中で、学校や生徒の個人情報については話していない。	
・ インターネット上で情報のやりとりをする際、学校に関わる個人情報の取扱いや人権侵害がないかなど、細心の注意を払っている。	

休日等の過ごし方は、人それぞれだと思います。自分でチェック項目を考え振り返りをしてみましょう。

社会教育
コーナー



参加型の演習を用いて メディア利用のルールを作ってみませんか？

わが子のゲームやインターネットの利用に関するルールづくりをテーマにして、参加型保護者会のワークショップを今年度も各校の学年・学級懇談会の開催に先駆けて実施しました。懇談会や保護者会に参加型の手法を取り入れることで、参加者は学びを深めたり、自身の振り返りにつなげたりできました。

ワークシートを使って、ワークショップの様子を紹介します。



①まずは、アイスブレイク。

③自身のメディア利用の振り返りを可能な限り自己開示。



話し合いは和やかに進行。

◎各自のメディア利用の状況や価値観の違い等を聞き取り、理解することができました。

子どものメディア利用のルールを考えてみましょう

子どもたちをメディア（テレビやゲーム、携帯端末やインターネット）のトラブルから守るために、どのようなことができるでしょうか。今日は子どものメディア利用のルール作りを通して、みんなで一緒に考えてみましょう。

ワーク1

みなさんはメディア機器をどのようにお使いですか。以下の項目ごとに使い方の振り返りをしてみましょう。

利用メディア（ゲーム機・スマホ・パソコンなど）	利用場所（自宅・勤務先など）
利用内容（ゲーム・検索・買い物・メール・SNSなど）	利用総時間（1日24時間あたり）

ワーク2

子どもたちがメディアを利用する際に守ってほしいルールを考え、グループで話し合ってみましょう。

遊んでよい時間帯、曜日など	遊んでよい場所（自宅・友だちの家・公園など）
子どもだけでやってよい機能（通信・ネット検索など）	そのほかに、あった方がよいと思うもの

②グループワークの前に、話すテーマ（子どもの頃、好きだったアニメやアイドル等）を決めて自己紹介。

④子どもの姿を思い浮かべながら、「ゲーム」「ネット利用」のルールを考えて提案。

⑤各自が提案したルールをシートにまとめてグループ毎に発表し、全体で共有。



◎全体共有により、新たな発見をしたり、自身を振り返るきっかけが生まれたりしました。

⑥最後に進行役のまとめ。

参加者が考えた「ゲーム」「ネット利用」のルール（抜粋）

<ゲーム（小学生を対象）>

- ・場所：自宅、友だちの家
- ・時間：1日30～60分
- ・宿題や食事に影響しないように使う
- ・ネットを介した機能は使わない
- ・ゲームと同じ時間「外遊び」、倍の時間「読書」等

<ネット利用（中学生を対象）>

- ・場所：自宅のリビング
- ・時間：1日1時間のみ
- ・検索やメールは◎、有料のゲーム等は×
- ・「ながら○○」をしない
- ・親子で話し合い、保護者がしっかり管理する 等

参加者の感想

- ・テーマがタイムリーでした。参加者同士の情報交換の中で参考になること（スマホの現状、子どもにメディアを与えるタイミング等）が多かったです。
- ・アイスブレイク(コミュニケーションビンゴ)で、とても心がほぐれて気持ちよくお話ができました。学級懇談では、アイスブレイクをぜひ取り入れたいと思います。
- ・親として、自分の思っているルールの基準と参加者の基準や考え方が違って参考になりました。



大人が子どもにルールを押しつけるのではなく、子ども自らがルール作りに加わることで遵守意識は高まります。メディアの利用について、まず保護者が参加型の保護者会でルールの叩き台を考え、その後、子どもが学級活動等で叩き台をもとに話し合い、ルールをまとめていくことで、互いの思いがこもったルールとなり、学校や家庭で活用することができます。4人程度の小グループによる話し合いと全体での共有によって、多様な価値観を学ぶことができるという点でも、参加型の演習は大変有効です。